

「終活」とは、
家族への愛情を表すもの

—はじめに、終活カウンセラー協会、終活カウンセラー資格について、簡単にお聞かせください。

武藤 終活カウンセラー協会は2011年7月に法人化し、これまでに「終活カウンセラー初級検定」として、過去20回の講座・試験を開催してきました。現在、約1500名の資格者を有しています。受験申込みの状況から、年内に2000名を超える見通しです。

終活カウンセラーとは、終活に関してじっくり話を聴けるスキルを持った資格者のことで、終活に必要な幅広い知識を持ち、相談者の「悩み」がどの分野に当てはまるかを的確に伝えることができ、また「話を聴いてくれた」と喜ばれるスキルの持ち主のことです。

どのような職種の方が終活カウンセラーになっているかというと、葬祭業者をはじめとして、保険関

「FPの皆さん、終活カウンセラーとして、 “自分を見つめ今をより良く生きる”ための アドバイスをしていきませんか！」

いま、“終活”に人々の注目が集まっている。

財産管理、エンディング・ノート、介護、終末期の意思表示、遺言、相続、供養、葬儀、死後の手続きなど、終末期のライフプランに不安や悩みを持つ人は多い。

これらを解決するためのサポート役が「終活カウンセラー」だ。

一般社団法人終活カウンセラー協会代表理事の武藤頼胡氏に、終活とは？ 終活カウンセリングとは？ についてお話をうかがった。

編集部-聞き手・構成 大野真人-写真

一般社団法人終活カウンセラー協会 代表理事
武藤頼胡 氏
Yoriko Mutoh

係者、主婦、葬祭関連業者、ファイナンシャル・プランナー、士業、学生、その他一般の方々など、特定の業種に偏らずさまざまです。

取得目的について資格者にお聞きしてみると、「仕事のため」の方が半数、「自分や家族のため」の方が半数であり、事業目的以外に自身のために勉強していただいているというのが、終活カウンセラーの特徴の一つとなっています。

終活以外で、ある活動を表す言葉として「婚活」や「美活」などを聞いたことがあるのではないのでしょうか。これらは、「婚活」であれば結婚、「美活」であれば美容と、特定の目的に向かって関心のある方だけが取り組む活動です。

一方、終活は、興味の有無にかかわらず、すべての人にとって避けられない人生の終焉に関わる活動です。そのことが、幅広い方に終活カウンセラー資格を取得していただいている原因の一つになっていると思います。

——終活に関する専門資格というと、葬祭関係者の割合が多いのではないかと予想しましたが、むしろ一般の方々も多いのですね。

武藤 終活とは、イコール葬儀・葬祭ではありません。例えば、葬儀や遺品の後始末の問題は、自身が亡くなったあとのことで、大切な家族に迷惑を掛けないために事前に準備をしておくものです。つまり、家族に対する愛情があるからこそ、葬儀などの準備をします。終活の本質はまさにここにあります。終活とは、家族に対する愛情をカタチに表す活動です。その表し方は、旅行のプレゼントかもしれませんし、生命保険への加入

や円満な遺産分割のための遺言、エンディング・ノートの作成であったりするわけです。

いわゆる、おひとりさまの方でも、立つ鳥跡を濁さずで、自身に万一のときに他人に迷惑を掛けたくないという想いをお持ちです。お世話になった方や地域に対する御礼の気持ちを生前のうちにカタチに残しておくことを考えられる独身者も少なくありません。

——終活カウンセラー資格試験は、どのような行われるものですか。

武藤 「終活カウンセラー初級検定」という名称で、講座と試験を1日コースで行います。今年11月2日に宮城県仙台市で行う開催で、第22回目となります。

「終活カウンセラー初級検定」では、民間資格の良さを表したいと思っています。ただ講義を受講し試験を受けていただくだけでなく、同じ会場で隣り合わせになった皆さま同士、この出会いを大切に

てもらえるような運営を行っています。「終活カウンセラー初級検定」では事務局が昼食をご用意させていただきますが、受講者の皆さまには、「共食」によって出合いの大切さを感じながら、交流を図っていただいています。このふれ合いのプロセスを大切にすることが、終活カウンセラーとして活動する際の相談者に対する真心のようなものにつなげていただきたいと願っています。

終活カウンセラーとは、近所で寄り添う話し相手

——終活カウンセラーとは、具体的に、どのような活動を行う専門家でしょうか。

武藤 講座では、「終活カウンセラーとは、近所にいる、終活について一般の人より少しは知識を持っている話し相手です」とよく申し上げます。

終活に限りませんが、社会では専門家と一般の人との間の知識・

情報の格差がとても大きくあり、その間をつなげる人が必要ということは多いと思います。FPの皆さんが専門とするお金に関する知識についても、プロとアマの差はとても大きくて、その間で皆さんが活躍されているのではないのでしょうか。

終活についても同じです。例えば、終活カウンセラーは、「こんな話まで税理士さんに話して大丈夫でしょうか?」「税理士さんに相談するととてもお金がかかってしまうでしょうか?」といった相談を受けることがあります。お客さまはいま何に困っていて、どうしたいかをきちんとお聞きして、専門家につなぐというのが終活カウンセラーの役割といえます。

相談内容は多岐にわたりますが、多いのはお墓に関する相談です。高齢者の方にとってテレビは有力な情報源の一つです。永代供養、墓友（はかとも）、樹林墓などが番組で放映されると、それらについて紹介してほしいと、私どもに

「終活とは、自分の終焉を考える ことを通じて自分を見つめ 今をより良く生きること」

すぐに問合せが入ります。

しかし、私どもは、すぐにお墓の種類や葬儀の方法のご説明をするわけではありません。先ほども言いましたように、ご家族への想いについて、具体的なご説明の前にお聞きするようにしています。

肝心なことは、ご本人やご家族にとって納得できる選択をしていただくことが重要であり、それは、お墓も、葬儀も、宗派も、生命保

険も…、終活に関わるすべてにと

って同じことです。終活カウンセラーは、「シニアのお困りご提案内人」なのです。

以前、葬祭コンサルタントのサポートで、ある葬儀社で開催されたお葬式セミナーを運営していたときのことです。セミナーを年間90回以上開催していたのですが、その際に受けた質問を記録にとどめていました。質問内容はさまざま

「エンディング・ノートはどう書けばよい?」「亡くなったあとのことを誰かに託したい」「旅行に行きたい」。「ああ、相談を聞いてくれる窓口がないんだな」と感じたのです。お葬式セミナーには、

杖を突いて来られる方や車椅子の方が、ご不便をおしてたくさん集まってくれました。「相談を受ける元気な運営側が待っていて、身体がご不自由な皆さまが訪れるというのはどうしたものか?」と違和感を持ちました。こうした体験を経て、終活全般について、相談に応じられる専門家がいたら…との想いから、2010年8月に「終活支援センター」を設立、その後、組織を拡大し、今日の終活カウンセラー協会に発展しています。

**核家族化、独居老人増加のいま
終活の大切さを普及させていきたい**

— 今後、終活カウンセラー協会として、どのような展開をお考えですか。

武藤 終活関連は、新しい事業分野で、今後どのように発展していくかは取組み次第です。

終活とは「自分の終焉を考えることを通じて自分を見つめて今をより良く生きること」。私たちは

終活という言葉でそれを表していますが、終活は、太古の昔から先人が行ってきたことであり、決して新しい取組みではありません。

今日の日本は、高齢化・核家族化が進み、独居老人が増えるなど、過去に経験したことのない社会が訪れており、終活についての関心が高まっています。終活の旗を掲げることで「後悔しない人生を歩むこと」「人生のやりがいや生きがい」への取組みの大切さを広く普及させていく、終活カウンセラーがその担い手になっていきたいと考えています。FPの皆さんにもぜひ、終活カウンセラーとして共に活動していただき、終活に不安や悩みを持つ多くの方を専門家に つなぐ役割を果たしていただきたいと願っています。

武藤頼胡氏

1971年生まれ。一般社団法人終活カウンセラー協会代表理事。リンテア株式会社代表。明海大学外部講師。「終活カウンセラー」の生みの親。終活活動しながら、「終活」の大切さを伝えるため、毎月草創でアンケートを実施。リンテアラインでは、葬儀のコンサルタント業務の展開。お客さまの希望を叶えるための提案を心がけて実践中。